

法と正義の資料館 第2回企画展

「森重昭と被爆米兵調査 —戦争が終わるといふこと—

今号では、法と正義の資料館（多摩キャンパス炎の塔2階 大学史資料館と併設）の企画展をご紹介します。

2025年はアジア・太平洋戦争の終結から80年となります。こうした節目に、法と正義の資料館では第2回企画展「森重昭と被爆米兵調査—戦争が終わるといふこと—」を開催しています。本学出身の森氏は、2016年5月27日にオバマ大統領（当時）が、米国現職大統領として初めて広島を訪問した際、その活動が認められて式典にて抱擁を交わしました。本展では森氏の活動にフォーカスしていきます。

森氏は広島への原爆投下に遭った被爆者です。戦後独自に、日本軍の捕虜として広島で被爆して亡くなった米軍兵士の調査を行い、その足跡を明らかにしました。さらに被爆米兵の遺族に対し、自身の調査の内容を手紙で伝えていきます。このような活動を、森氏が所蔵する資料などから全4章で振り返ります。

第1章「アジア・太平洋戦争と呉軍港空襲」では、1945年7月28日の呉軍港空襲から8月6日の広島への原爆投下までを概観します。

第2章「ロンサムレディー号」では、米軍の爆撃機であるロンサムレディー号の搭乗員の足跡をたどります。彼らが呉軍港空襲に加わり、対空砲火で撃墜されて山口県伊陸村（現 柳井市伊陸）に降り立ったあと広島市に連行され、8月6日に被爆するまでの経緯を図や写真を用いて解説します。

第3章「森重昭と被爆米兵調査」では、森氏所蔵の資料を展示し、彼の調査・活動を追います。森氏

は被爆米兵調査を独自に始め、それによりロンサムレディー号のカートライト元機長と運命的な出会いを果たします。さらに2人が親交を深め、ともに被爆米兵のための慰霊碑を建立するまでの過程についても紹介しています。

第4章「戦争が終わるといふこと」では、被爆米兵の存在を世に示した森氏の活動が認められ、オバマ大統領から抱擁された歴史的瞬間を描いた絵画などを展示しています。

アジア・太平洋戦争は国家間の条約締結により終結しましたが、本当の意味で「戦争が終わるといふこと」はどのようなことか、森氏の活動を通じてあらためて考えるきっかけとなれば幸いです。

